

# 通信系ディーラー、携帯販売代理店にも大きな商機 加速するスマホFMCビジネス

スマートフォンの内線収容を売りに販売を伸ばすPBXやアダプタ装置が相次ぎ登場している。有望商材をピックアップしながら、通信系ディーラーの新商材としての可能性とビジネスの現状をレポートする。 文◎坪田弘樹(本誌)

PBXやビジネスホン、IP電話サービスを販売する企業向け電話ビジネスの現場で今、新たな動きが始まっている。これらの既存商材とスマートフォンを連携させる「スマートフォンFMC」ビジネスだ。スマートフォンを企業電話システムの内線電話機として利用するソリューションが次々と登場している。

特筆すべきは、従来からPBXやビジネスホンを提供してきた“伝統的”な通信機器メーカーよりもむしろ新興のプレイヤーが先行して顧客を開拓している点だ。

スマートフォンの最大の特徴は、アプリケーションを追加して機能を拡充できる点にある。携帯電話に比べてアプリの開発も配布も容易で、かつ自由度も高い。このオープンな環境が、これまで変化に乏しかった企業電話システムの世界に、次々と新ビジネスを生み出している。

スマートフォンFMCは、端末に搭載するソフトフォンアプリと、PBX／ビジネスホンとの連携によって実現される。PC向けのソフトフォンと仕組みは基本的に同じだ。企業内の電話システムと連携し、外線発着信や内線通話、保留・転送等を可能に

する。このスマートフォンFMCを、昨年からは早く提供開始し、実績を積み重ねてきているのが、エス・アンド・アイ(S&I)とオフィス24の2社だ。どちらも、独自のIP-PBXの目玉機能としてスマートフォン連携を提案。顧客数を順調に伸ばしている。

## 外線発着信に独自の工夫

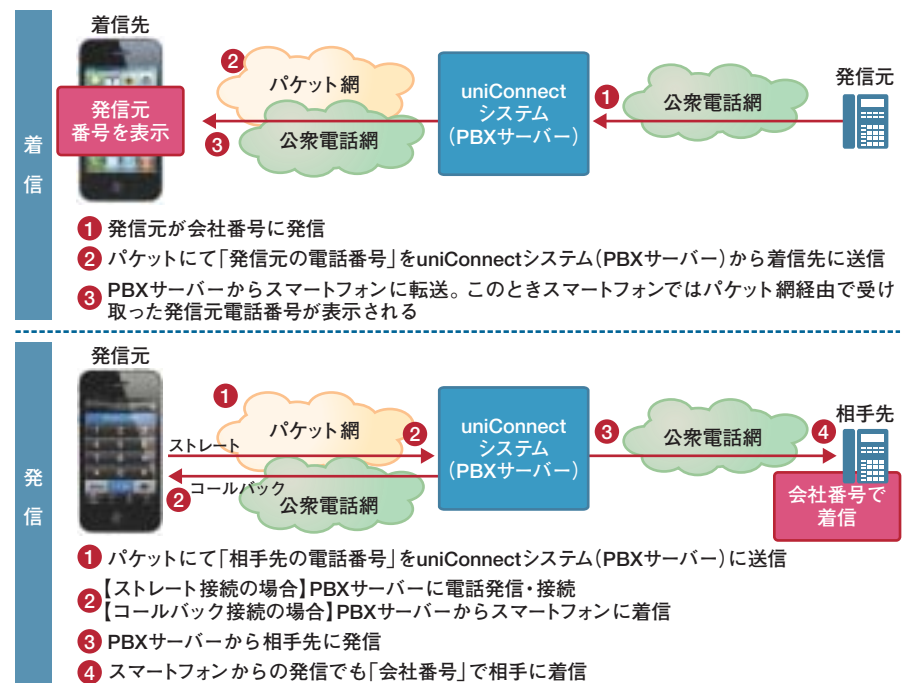
「ユーザーの要望を取り入れなが

らバージョンアップを繰り返してきた。『できないことはほとんどない』くらいに完成度が上がっている」

S&I・第三事業部事業部長の村田良成氏は、同社が提供する「uniConnect(ユニコネクト)」について、そう自信を見せる。

uniConnectは、スマートフォンに「uniConnectダイヤラー」をインストールし、これとIP-PBX「CommuniGate Pro」を連携させて内線端末として利用するものだ。スマートフォンとPBX間の通話は、固定-携帯間の定額料金プランを用いて無料化する。当初はiPhoneからスタートし、

図表1 エス・アンド・アイ「uniConnect」の発着信の仕組み



その後Android端末にも対応した。

S&Iが最大の売りにしてきたのが、会社にかかってきた電話をスマートフォンで受ける際に、元の発信者の番号を画面に表示させる機能。こう書いてしまうと単純に思えるが、PBXに入ってきた着信をスマートフォンへ転送するため、そのままではPBXの番号(自社の代表番号等)が表示されてしまい、受け手は元の発信者がわからない。携帯の最も基本的な利点が失われてしまう。

uniConnectではこの問題を、図表1のような仕組みで解決している。通話の転送と並行してパケット通信で発信者番号を通知する。村田氏によれば、「他にもFMCシステムは多いが、この発信者番号表示が導入の決め手になるケースも多い」という。

一方、外線発信にも工夫を凝らしている。パケット通信でPBXに番号情報を送り、端末とPBX、PBXと相手先との間の2つの通話をつなぐ形だが、その方法を2通り用意した(図表1の下)。キャリアとの契約形態によって使い分けるためだ。

発信命令を受け取ったPBXから、ユーザーの端末と相手先に2つの通



エス・アンド・アイ(S&I) 第三事業部事業部長 村田良成氏

話を発信し、それをつなぐ「コールバック方式」(いわゆるV字発信)は、固定回線から携帯への通話が定額になる料金プランに適している。外線発信がすべて「PBX→スマホ」になるからだ。個人持ちのスマートフォンを内線端末として利用する場合にも適する。

スマートフォンからPBXへ電話をかけ、そこから相手先に電話をつなぐ「ストレート方式」は、携帯からのかけ放題プランに適している。

そのほか、操作性の改善はもちろん、端末側から内線転送やボイスメールの設定を詳細に行えるようにするなど(右上の写真)、機能強化を続けてきた。

現在は従業員数百名規模の中堅企業からの引き合いが多く、中小をターゲットとする販売チャンネルも増加しているという。



iPhone用のダイヤラーアプリ「uniConnectダイヤラー」  
内線転送やボイスメールの設定を、端末側から行える。スケジュール設定の細やかさなどもuniConnectの特徴

## 「マルチキャリアFMC」で拡販

S&Iが固定-携帯間の定額通話プランを活用するのに対し、オフィス24はパケット通信を使ったVoIP通話で、PBXとスマートフォン間の通話を実質無料化している。3Gデータ通信網および無線LANを経由して、スマートフォンを同社の「MOT/PBX」の内線電話機として利用できる。

また、当初からAndroid端末にフォーカスし、マルチキャリア対応を最大の売りとしてきた点も大きな違いだ。Android用のソフトフォンアプリをインストールすれば、キャリアを問わず内線端末化できる。

これは、携帯と固定回線を同一キャリアで統一しなければならない通信キャリアのFMCサービスとの差別化を明確に打ち出すためだ。社内の携帯と固定電話を単一キャリアに統一できる企業は少ない。「そうした縛りがなく、Android端末であればキャリアを問わずFMCが実現でき



5月からuniConnectの標準機能として提供を始めた「安否確認機能」の管理画面。社員のスマートフォンの位置情報を収集し、一覧表のほか、グーグルマップ上に所在を表示できる